

32. ^{いけだこふん}池田古墳

■ 指定日

平成25年3月22日

■ 種別

兵庫県指定史跡

■ 年代

古墳時代中期

■ 所在地

朝来市和田山町平野

■ 所有者

国交省、朝来市、その他個人用地



■ 内容

5世紀初頭に築造された但馬最大の前方後円墳。全長171m(周濠含め)と推定される。明治期の山陰線敷設に伴い墳丘の土が持ち出されたと伝えられ、現状の残存状況については良くない。しかし、昭和46(1971)年度からの発掘調査をはじめ、くびれ部の埴輪列が確認されるなど、墳丘規模を復元できる一定の成果が得られた。平成18(2006)年度からの朝来市による調査では墳丘基底部の検出とともに、それまで知られていなかった造出(つくりだし)の存在を確認した。その後、平成20(2008)年度からの県立考古博物館による発掘調査では、造出が2か所あることと共に、渡土堤(わたりどて)という古墳の内と外をつなぐ構造物が検出された。これら一連の発見にあわせ、東の造出付近で出土した23体もの水鳥形埴輪は、古墳の祭祀実態を検討するうえで大きな成果となった。埋葬施設は不明であるが、和田山町高田の墓所で発見された長持形石棺材は、時期・内容ともに本古墳にふさわしい。池田古墳は市内に存在する大型古墳とともに「但馬の王墓群」のひとつとして位置づけられる。